
彩獄を生きた傀儡（仮） ～予告編～

波摩璽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彩獄を生きた傀儡（仮） 予告編

【Nコード】

N6269P

【作者名】

波摩璽

【あらすじ】

一人の少年が幼いながらも悟り、間違いに気がつくお話。

(前書き)

はじめまして、波摩璽と申します。読みはハマジです。

これは多分投稿するであろう物語の前振りになります。

年内に一話以上投稿できるように頑張りますのでよろしくお願いします。

とある少年の話をしよう

その少年はどこにでもいる普通の人だった。

親が少々特殊な点を除けばごく平凡な生活を送り

人並みの幸せをかみしめて天寿を全うしたはずであろう人間

その少年は『夢』がなかった

幼いながらもこの世は『有』『無』でしか評価されないことを知った
何もかもがその中間である自分は全てが『無』と評価されたことも
知った

頑張ってそれを返上しようとしたが、『有』にならない限り認めて
くれる人がいないことも知った

だからその少年は自分の全てを1と0に分けた

出来るか、出来ないかだけを残し

出来るそう、出来るかもしれないという希望を徹底的に削った

必然的に『夢』はその研磨作業で削り取られた

ここに強制しなければ何もできない傀儡かいらいが誕生した

数年後、少年はそれなりに自分で行動することにした

それはささいなこと

好きな漫画を読む

好きなゲームをする

好きな小説を読む

クラスメイトと話をする

体を全力で動かす

今までモノクロでしか見えなかった世界に色がついていくのを感じた
全てに色がつき、自分の色がなんとなく分かった時

後悔した

出来るか出来ないかで生きてきた結果、少年は人を信じていなかった人とふれあうことで生まれる不確定要素を少年は排除してきた自分のことを知って受け入れる人がいる『かもしれない』が、拒絶される『かもしれない』

それは出来る出来ないで判断してきた少年にとって『可能性』は排除すべき対象

なので少年は他人との付き合いが無いそのことに後悔していた

目の前を見る

道が途中で途切れている

その先には崖、しかも雲の上まで伸びている

進むのならよじ登らなければならぬ

それを確認したうえで少年は前に進んだ

まだ『可能性』を捨てるのは遅い

無駄な時間を過ごしたおかげで他の道は無くなったが

この道を進んでいけば

傀儡かいらいから人になれる

そんな『可能性』を信じて進んだ

しかし、世界とは無情なもの

その可能性に挑戦する前に存在していなかった崖から落ちるようになる

それは一種のバグ、神の争いに巻き込まれたと言う非常に身勝手なものだった

（後書き）

こんな感じでスタートするんですが、ちゃんとフラグ回収出来るの
だろうか……早くも心配です。

この物語はチート（？）オリ主＋転生＋クロスオーバーで作ってい
こうと思います。

色々言わないといけないことがあるように思うのですが、思いつき
ません……

拙い腕前ですが、どうかよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6269p/>

彩獄を生きた傀儡（仮） ～予告編～

2011年10月4日01時25分発行